



新年のごあいさつ

高浜市長
吉岡 初浩

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

令和2年1月に国内で初めて確認された、新型コロナウイルス感染症ですが、昨年5月からは感染症法上の5類に位置付けられました。ウィズコロナの実現までに至る、医療・介護従事者の皆さまをはじめ、市民の皆さまのご協力を、改めて感謝を申しあげます。

さて、昨年は、これからの10年間における本市のめざすべき姿を表した「第7次高浜市総合計画」がスタートいたしました。この計画では、将来都市像を「人と想いがつなぐつながるしあわせなまち 大家族たかほま」と定めました。第6次高浜市総合計画でも掲げた「大家族たかほま」という思いを大切に、皆さまに幸せを感じていただけるまちにすべく、不断の努力を重ねてまいります。加えて、7月からは、かわら美術館が、新たに「かわら美術館・図書館」としてスタートを切りました。いきいき広場にも図書を配置するなど、皆さまの活動のより近くに図書を感じていただけるようにしており、皆さまの暮らしに寄り添う図書館をめざしてまいります。

また、昨年も高浜市出身の若い世代の活躍に勇気づけられた年でもありました。名城大

学の岩井俊介さんがプロ野球ドラフト会議で2位指名され、また、日本大学の杉浦悠太さんがゴルフ国内男子ツアー「ダンロップフェニックスストーナメント」で大会史上初のアマチュアでの優勝を果たし、プロ宣言をされました。

こうした若い世代が歩んでいく将来のために、さまざまな取組みを加速させていかなければなりません。

そのひとつとして、これからの将来を担う子どもたちの支援を行うために、こどもを育てる保護者だけではなく、こども自身も相談できる「こども家庭センター」を新たに設置いたします。皆さまの気持ちに寄り添った支援を行い、子育て・子育てしやすい環境整備に努めてまいります。

また、デジタル化への対応として、本市ではこれまでも、マイナンバーカードを利用して、コンビニでの住民票の交付などを行ってまいりました。今後は、市役所の窓口を市民の皆さまが「市役所に行かなくても用事が済むようなデジタル窓口」とするべく取り組んでまいります。その具体的な取組みのひとつとして、本年は、住民票や税務関係の証明書の発行手数料をキャッシュレスで決済できるようにしてまいります。

これからも将来のあるべき姿のために必要な取組みを行ってまいります。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

おわりに、令和6年の新春の門出にあたり、本年が市民の皆さまにとって素晴らしい1年になることを祈念し、新年のごあいさついたします。